

はじめに

近年、地球規模での温暖化問題、都市部を中心としたヒートアイランド問題、VOCの排出が原因の光化学スモッグやホルムアルデヒドに代表される有害化学物質が原因のシックハウス、シックスクール問題など数多くの課題がクローズアップされています。

これらの状況下、建築基準法、大気汚染防止法、労働安全衛生法など法改正も施行され、これにあわせ基準類、仕様書類の見直しも行われました。

平成16年度には、従来の国土交通省「建築工事共通仕様書」に代わって、各省庁統一の工事仕様書になり、郵政事業庁、厚生労働省、文部科学省、防衛庁などで独自に作成されていた工事仕様書も、「建築工事標準仕様書」に一本化されたことは記憶に新しいと思います。

以後、3年毎に「建築工事標準仕様書」は改訂され、前版は平成19年に行われた一方で、平成20年10月以降、新JISへの移行に伴い、JIS製品規格の大幅な廃止、統合及び制定が行われているため、平成19年版で引用している材料の一部のJIS製品規格が存在しなくなり、その整合性がなくなっていました。

そのため、使用材料であるJIS製品規格の動向を受けて、環境に対する配慮を含めたものに大幅改定された平成22年版「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)」、「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)」が発刊されました。

そこで、このマニュアルは平成22年度版「公共建築工事標準仕様書」、「公共建築改修工事標準仕様書」に準拠させ、環境に対応した商品を中心に選定し、内外装全般にわたり作成いたしました。ご活用いただければ幸いです。

< 追記 >

塗装仕様書は代表的なものを収録しました。その他の塗料名の仕様(組み合わせ含む)については別途お問い合わせください。また、JIS規格、JASS規格品として挙げている商品は規格に該当するもの及び規格に相当するものです。